

会 議 録

会 議 の 名 称	令和4年度 第2回 枚方市上下水道事業経営審議会
開 催 日 時	令和4年11月15日（火）10時00分から
開 催 場 所	対面とオンライン併用のハイブリッド開催 （枚方市上下水道局管理棟4階大会議室）
出 席 者	真山会長、八木副会長、浦上委員、笠原委員、西浦委員、中川委員、 中島委員、河本委員、覚道委員
欠 席 者	山城委員、名倉委員
案 件 名	1. 社会資本総合整備計画の事後評価について 2. 水道事業 経営評価について 3. 下水道事業 経営評価について 4. 「水道ビジョン2022」、「下水道ビジョン2022」における新たな 施策評価について 5. その他
提出された資料等の 名 称	資料1-1 社会資本総合整備計画の事後評価について 資料1-2 事後評価書【社会資本（重点）】 資料1-3 事後評価書【防災・安全（非重点）】 資料1-4 事後評価書【防災・安全（重点）】 資料2 経営評価について 資料3 経営比較分析表（令和3年度決算）（水道） 資料4 令和3（2021）年度水道事業 基本施策評価表 資料5 経営比較分析表（令和3年度決算）（下水道） 資料6 令和3（2021）年度下水道事業 基本施策評価表 資料7 「水道ビジョン2022」、「下水道ビジョン2022」における 新たな施策評価について 資料8 新基本施策評価シート（案）説明資料 資料9 水道ビジョン2022 基本施策評価シート（案） 資料10 下水道ビジョン2022 基本施策評価シート（案） 参考資料1 令和4年度第1回審議会質疑一覧 参考資料2 水道ビジョン2022「取り組みの方向性」と「令和4年度 計画目標・取り組み内容」関係表 参考資料3 下水道ビジョン2022「取り組みの方向性」と「令和4年 度計画目標・取り組み内容」関係表 その他配付資料 上下水道事業経営審議会委員名簿、 上下水道局出席職員等一覧、会場配席図
決 定 事 項	1. 社会資本総合整備計画の事後評価について報告を受け、了承した。 2. 「令和3年度水道・下水道事業経営比較分析表及び基本施策評価表」 の報告を受け、審議会による外部評価として了承した。 3. 次回開催日程及び開催方法については、事務局から調整のうえ決定 することとした。
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開
傍 聴 者 の 数	1人
所 管 部 署 （ 事 務 局 ）	上下水道計画課

審 議 内 容

(案件 1)

社会資本総合整備計画の事後評価について

事 務 局： (社会資本総合整備計画の事後評価について説明)

河 本 委 員： 資料 1-1 P-19 の蹠距排水区では、ハード施設が 3 基全部完成しているという説明でしたが、北中振雨水貯留管が平成 28 年 5 月に完成しており、総数は 4 基が正しいではありませんか。

事 務 局： 当該施設は蹠距雨水貯留管への流入管として計画し、本管である蹠距雨水貯留管より先に完成したため、暫定的に北中振雨水貯留管として供用を開始しました。本管である蹠距雨水貯留管の施工時に統合しているため、結果として3基になります。

社会資本総合整備計画の事後評価について報告を受け、審議会として了承した。

(案件 2)

水道事業経営評価について

事 務 局： (経営比較分析表（令和 3 年度決算）（水道）について説明)

覚 道 委 員： 令和 3 年度水道事業経営比較分析表は、枚方市の数値と中核市の平均値を比較していますが、昨年度の資料では、中核市の平均値ではなく類似団体の平均値と比較しています。国からの指導で変更したのですか。

事 務 局： 令和 2 年度実績分までは、総務省の発表を基に資料を作成していましたが、令和 3 年度実績分は、枚方市を除く中核市 61 市に対する調査を実施し、水道事業を運営する給水人口 30 万人以上かつ浄水施設を有する 37 団体（中核市 35 市と事務組合 2 団体）と比較することが適正と判断したため、記載を変更しています。国の指導で変更した訳ではありません。

事 務 局： (令和 3 年度水道事業基本施策評価表について説明)

河 本 委 員： 管路の整備更新については、中長期計画の年間目標が約 10 kmであるのに対して実際の整備延長は約 8 k mとなっています。なぜ評価が◎となっているのですか。

【次ページに続く】

事務局： 以前は小口径管路を整備していましたが、現在は優先度の高い大口径管路を整備しています。そのため、管路 1m 当たりの施工単価が上昇し、結果として整備延長が約 8km になったことは致し方ないと考えています。

中川委員： 中宮浄水場更新事業について聞かせてください。

事務局： 現在、中宮浄水場の敷地内には、第 1 浄水場と第 2 浄水場がありますが、今回は、中宮浄水場の南側に隣接した用地で、第 1 浄水場を更新することになります。

八木委員： No.10「小規模貯水槽の管理」について、以前は衛生上、好ましくない管理実態があったと聞いたことがあります、現在はどのような状況ですか。

事務局： 近年は、本市で貯水槽に衛生上好ましくない管理実態が確認されたという話や相談はありません。現在は、小規模貯水槽の管理者が適正に管理していると認識しています。

河本委員： 枚方市が水道管を更新する際には、全てをダクタイル鋳鉄管にして、土壌に関係なく地震対策を取っているのでしょうか。

事務局： ダクタイル鋳鉄管については GX 型という抜け防止用の突起のある耐震管を採用し、小口径管路には継手を融着接続する耐震管のポリエチレン管を採用してすべて耐震化しています。また、本市の場合は、土壌対策として酸性土などの影響を考慮し、ダクタイル鋳鉄管にはポリエチレンスリーブを巻いて土とは直接接しないように対策をしています。

河本委員： 鉛製給水管については、どのような材質の給水管に更新するのでしょうか。また、上下水道局で推奨する材料があるか教えてください。

事務局： 引込みのある給水管については、更新工事に合わせ、各家庭にお知らせ文書を配布した後に承諾を得てポリエチレン管に取り替えています。

笠原委員： No.9「水質管理体制の強化」について、農薬類の検査は大阪広域水道企業団に依頼しているということですが、水質管理体制の全般について教えてください。

【次ページに続く】

事務局： 大阪広域水道企業団が構築したネットワークである「アクアネット大阪」で、淀川を水源とする各自治体がリアルタイムに水質データを共有しています。なお、通常の水質検査については、枚方市独自で定期検査を行っています。枚方市に検査機器がない場合は、大阪広域水道企業団が実施する市町村水道水質共同検査を利用しています。

(案件3)

下水道事業経営評価について

事務局： (経営比較分析表(令和3年度決算)(下水道)について説明)

笠原委員： (8)水洗化率について、直近の5年間は微増傾向にあります。「案件(1)社会資本総合整備計画の事後評価について」とも関連しますが、市内人口が減少する中、水洗化人口が増加しているという理解で良いのでしょうか。

事務局： 汚水整備地域の人口が多いため、結果的には水洗化率が伸びていると考えます。

事務局： (令和3年度下水道事業基本施策評価表について説明)

中島委員： No.2「工場系地域での汚水整備」について、評価が△になっています。R4年度の計画目標・取り組み内容には「事業効果を含めて慎重に判断していく。」と記載がありますが、工業団地の事業所の方から、汚水整備を要望する声が聞かれますので検討いただきたいと思います。

事務局： 現在、汚水整備については、工場系地域を含めた未整備地区に対して費用対効果を含めた課題を整理しどのように実施できるかを悩んでいる状況であります。

河本委員： No.11「貯留・浸透施設の活用」のR3年度の取り組み実績について、第1回審議会の「速報値」と今回の数値に相違がありますが、変更された理由を聞かせてください。

事務局： 第1回審議会の「速報値」に誤りがあったため修正しています。

「令和3年度水道・下水道事業経営分析表及び基本施策評価表」の報告を受け、審議会による外部評価として了承した。

【次ページに続く】

(案件 4)

「水道ビジョン 2022」、「下水道ビジョン 2022」における新たな施策評価について

事務局

(「水道ビジョン 2022」、「下水道ビジョン 2022」における新たな施策評価について説明)

笠原委員:

資料 9 の 1 ページの「水質基準適合率」について、法令で定められており達成できて当たり前のものが指標として挙がっています。もう少し自主的な努力が反映されるような指標が含まれている方が良いという印象を持ちました。

事務局:

ご意見ありがとうございます。水源の水質事故が発生したとしても水質基準が適合したということから、本市の努力が確認できるのではないかという議論があったため、水源の水質事故の件数と水質基準適合率を指標として併記していきたいと考えていますが、自主的な努力が反映できるような指標が他にないか引き続き検討していきます。

浦上委員

今回、新しく作成した評価シートは非常に見やすく、今後の評価に使いやすいものになりつつあると感じています。資料 9 と資料 10 は、取り組みの方向性ごとにそれぞれ 1 評価シートとして作成されていますが、全体の流れが確認できるように、評価項目を一覧で見られる総括表等を別シートとして作成すれば非常にわかりやすいと感じました。また、評価シートと総括表を評価項目ごとに番号で紐づけて連動させるとよりわかりやすいと感じました。また、この資料 9 と資料 10 のシートでは、取り組みの方向性（＜＞部分）が評価テーマになりますが、その重要性が感じられないため、工夫をお願いします。加えて、取り組みの方向性の右側の「総合評価」欄には、その年度の評価が記載されますが、「総合評価」はもう少し大きなスパンの評価というイメージがあるため、適切な名称を検討していただいた方が、市民の皆さんに公表したときに勘違いされずに済むと考えます。また、評価は毎年度行うものであるため、評価シートに評価年度がわかるように表示する方が良いと考えます。

事務局:

「総合評価」の名称については、よりわかりやすい表現を考えます。また、総括的な一覧表などの工夫については、市民に公表していくことを考慮し、しっかりと表現方法を検討していきます。

【次ページに続く】

八 木 委 員： 参考資料 2 と参考資料 3 の最終項目「環境対策と社会目標の実現」について、下水道事業の ICT 化に向けた検証が記載されていますが、水道についても「ICT 化」という表現が必要と思います。

事 務 局： 水道事業についても ICT 化を取り入れている自治体がありますので検討していきたいと思います。

中 川 委 員： 評価の表し方について、◎、○、△等は、現行の基本施策評価表に評価基準（説明）が記載されておりイメージが付きませんが、S、A、B、C を採用すると、例えば A と B の評価の違いが難しいと感じますので、基準の作成が必要と思いました。実績については、進捗状態がわかるような記載があればわかりやすいと思います。

事 務 局： ご意見ありがとうございます。いただいたご意見については、作業部会でしっかりと検討を続けていきたいと思います。

（案件 5）

その他

次回開催日程及び開催方法については、事務局から調整のうえ決定することとした。

以 上